

1. 世界史Aを学び始めるにあたって

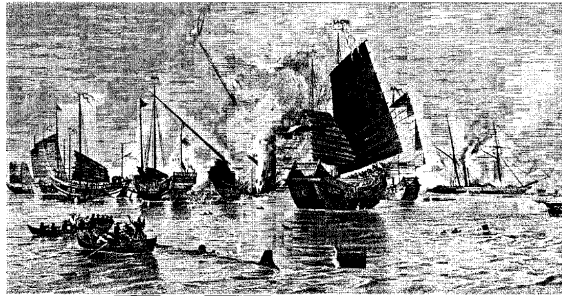
世界史Aは、現在の世界がどのようにして成立したかを学びます。では、現在の世界を説明する場合、どの時代の何から書き始めたらよいのでしょうか。

このプリント集は、そのスタートを 1840 年のアヘン戦争におきます。1840 年のアヘン戦争から自分たちの歴史を書き始めた書物はたくさんあります。たとえば、「日本海運ノート」は、アヘン戦争から記述を始め、欧米諸国との競争のなかで、日本の貿易を担う海運業がどのようにして成長していったかという展開で、海運業界の現在の姿を説明しています

アヘン戦争の背景は、後に説明することにして、ここでは戦闘経過をみます。右はアヘン戦争を描いた絵です。

戦闘は、近代兵器で武装したイギリス軍が圧勝しました。

中国海軍はジャンク船ですが、英国軍艦は外輪式の蒸気船（帆を併用）で潮や風に関係なく戦闘行動が可能です。英国軍の大砲は程が長く、炸薬入りの砲弾を使用していますので、破壊力が桁違いに強大でした。

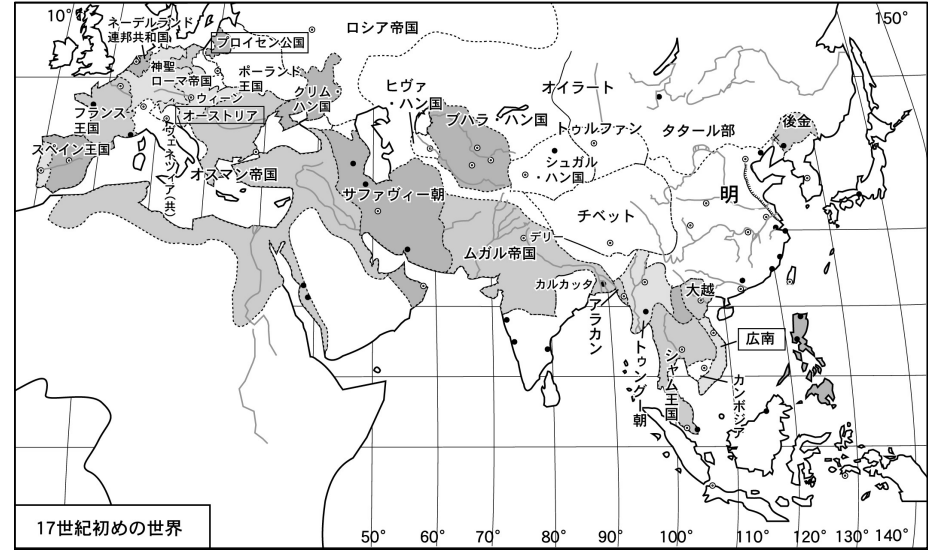


1842 年、北京の外港天津にイギリス軍が迫ると清朝は降伏し、南京条約が結ばれて、清は、世界の貿易体制のなかに組み込まれたのです。清朝敗北のニュースは、長崎の商館長が江戸幕府に提出する阿蘭陀風説書で日本に伝わり、日本人に衝撃を与えました。1853 年にペリーが来航する 10 年前のことです。

江戸幕府は鎖国を行い、人・物・情報の交流を統制しました。この制度は、日本独自のものではなく、当時の東アジア諸国（中国・朝鮮・日本など）に共通のもので、中国はこれを海禁政策とよんでいます。海禁政策は、16 世紀にヨーロッパ諸国がキリスト教の布教やアジア貿易を求めて来訪した頃に、東アジア諸国が対応策として採用した政策です。

問題 海禁政策を中国・日本が実施した頃、経済的・軍事的・文化的に、ヨーロッパ諸国とアジア諸国はどちらが優位にたっていたのでしょうか。

16 世紀は動乱の時代でしたが、17 世紀になると強力な統一政権が各地に成立しました。日本では徳川幕府。なかでも、アジアに出現した 4 つの帝国が圧倒的な実力を誇っていました。



17世紀初めの世界
四大帝国 オスマン帝国 サファビー朝 ムガル帝国 明 → 清

ところが、18 世紀後半、ヨーロッパとアジア諸国の力関係が逆転し、19 世紀になると、アジアはヨーロッパ諸国の勢力下におかれるようになります。1840 年のアヘン戦争に続き、1857 年インドでシパーヒーの反乱が鎮圧され、インドはイギリスの植民地となりました。中国・インドという二大勢力の敗北によって現代史は幕を開いたのです。世界史Aの前半は、アジアがヨーロッパの植民地となる過程、後半はアジアが独立を回復して現代国家を築いていく過程をとおして、日本が歩んできた近代史・現代史を学びます。

